第５回白山市教育委員会会議録

１　日時　令和８年６月５日（金）午後３時

２　場所　　白山市役所本庁舎４階　４０２会議室

３　出席者

教育長	清水　茂
教育長職務代理者	尾張　勝也
教育委員	安川　薫
教育委員	米川　祥子
教育委員	佐賀　一夫
教育委員	林　勝洋

４　欠席者

なし

５　説明員職氏名

教育部長	西村　幸広
教育総務課長	志村　春樹
学校教育課長	宮岸　孝光
学校指導課長	齋藤　信之
生涯学習課長	東　雅宏
松任図書館長	澤田　憲司
美川図書館長	中野　康則
鶴来図書館長	東　陽一
かわち図書館長	山根　知洋
子ども総合相談室長	和田　寿美恵

６　傍聴人　　なし

７　書記職氏名

教育総務課長補佐	瀬川　達也
教育総務課長補佐	鷲見　結実子

８　日程

日程第１　開会
日程第２　会議録署名員の指名
日程第３　諸般の報告
日程第４　議事
日程第５　その他
日程第６　閉会

９　本日の会議に付した事件

議案第１６号　令和８年度白山市一般会計補正予算（教育費）について
議案第１７号　財産の取得について（松陽小学校スクールバス購入）
議案第１８号　財産の取得について（ＧＩＧＡ端末購入）
議案第１９号　白山市教育委員会社会教育表彰選考委員会委員の委嘱について
議案第２０号　使用料・手数料の見直しに関する基本方針に基づく料金改定に伴う
関係条例の整備に関する条例（教育委員会分）について

10　議事の経過等　以下のとおり

清水教育長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として佐賀委員を指名した。
諸般の報告について、教育部長より教育長が出席した行事の主な概要について報告した。

◆主な行事の概要（４月 24 日教育委員会以降の報告）
・4 月 28 日（火）　第 1 回県教委連理事会（金沢市役所）
市町教育委員会教育長会議（KKR ホテル金沢）
・4 月 30 日（木）　第 1 回学びの多様化学校設立検討委員会（４０２会議室）
・5 月 14 日（木）～15 日（金）　全国都市教育長協議会定期総会研究大会（高知市）
・5 月 18 日（月）　へき地複式教育振興会理事会（金沢市役所）
第 2 回学びの多様化学校設立検討委員会（４０２会議室）
・5 月 25 日（月）　子どもの権利委員会（市民交流センター）
・5 月 29 日（金）　白山手取川ジオパーク推進協議会総会（市民交流センター）

本日の議題に入り、議案第 16 号～第 20 号について、質疑・応答が行われ、原案どおり承認し閉会した。

【案件の説明および諸報告について】
案件について、事務局より説明・報告し、原案通り承認された。

【主な質疑・応答の内容について】
◆令和８年度白山市一般会計補正予算（教育費）について
（尾張教育長職務代理者）
生活リズム向上プロジェクト事業の内容についての質問です。オンラインコンテンツということは低学年がタブレットで入力するというような形式のものですか。
子どもの状態を把握しデータに残すということも大事ではありますが、低学年の一日が、まず学校に来たらタブレットを開き、自分の記録をデジタルで入れる、選ぶということから始まる、ということには反対です。
実際に予算がついて実施するにしても、そのやり方、入力方法、時期、学校で実際にどう進めるかということは今後慎重に進めていってほしいと思います。メリットもあるでしょうが、デメリットもいろいろと考えられるので、精査して行うべきであるという意見です。

（安川委員）
子どもが低学年の時に冊子を家で一緒に記入した記憶がありますが、低学年の子どもが、学校で、自分１人で自分の生活のことを記録するのは難しいと思います。おうちの方が子どもを上手に観察して、一緒に楽しんで取り組めるということであったらいいと思います。

（東生涯学習課長）
取り組みは、冊子のときと同じで期間を区切り、1ヶ月くらいで一旦記録を完結できるようにします。
タブレットの使い方につきましては学校教育課の方とも協議をしながら慎重に進めますが、今後もタブレットを自宅に持ち帰ることは続きますので、家庭でも入力はできることになります。
この生活リズム向上プロジェクトは、家族で取り組んでいただきたいものです。これまでの結果・感想等からは、子ども達から、おうちの人に、今日は赤の食べ物を増やしてほしい、果物を増やしてほしい、というリクエストをしているというふうに聞いています。記録そのものも大切ですが、そうしたやりとりをして、家族で生活リズムを整え、家族で取り組みが見えるようにしていきたいと考えています。

（佐賀委員）
デジタル化のメリットは、どんなことでしょうか。双方向で、入力すると何かが視覚的に返ってくる形式になるとか、音が鳴るとか、そういうことですか。

（東生涯学習課長）
例えばあまり取り組まないとモンスターが大きくなる、などが考えられます。
また、デジタルコンテンツとなることで、例えば夏休み明けに１度、冬休み明けにもう一度できたり、冊子のときの情報は１年生と２年生での変化が見えませんでしたが、個人の端末にデータが蓄積されてわかりやすくなったりということがあります。
さらに、これまで冊子は毎年度２学年分しか準備できませんでしたが、高学年も含めて取り組むことも可能になり、将来的には全学年で取り組んでも、何ら問題はないかなというふうに考えています。

（佐賀委員）
この取り組みは生活リズムを整える目的で行ってきたものですが、これまでも、書きっぱなしでその後はどうなんだろうという課題があったかと思いますし、ゲーム感覚で「大きくなったモンスターが見てみたい」というようなことにならないよう、また、やりっぱなし頼りっぱなしにならないような工夫ができたらいいと思います。

（清水教育長）
ありがとうございます。
今いただいたご意見をもとに、また、導入にあたっては学校側とも、もちろ

ん保護者とも、連携協力して、周知もよろしくお願いしたいと思います。

◆財産の取得について（松陽小学校スクールバス購入）

（佐賀委員）

現在スクールバスは白山市内で何台保有していますか。

校区が広いため、通学に支障があって導入されているかと思うのですが、通学以外の使い方はされていますか。

（宮岸学校教育課長）

スクールバスは16台保有しています。

登下校以外の使い方としましては、社会科見学であるとか、学校行事の他、土日は中学校の部活動などでも使用しております。

◆財産の取得について（GIGA端末購入）

（尾張教育長職務代理者）

令和２年に購入したものを今回６年経過して更新ということで、次回また6年後に更新ということですか。また、財源について教えてください。

（宮岸学校教育課長）

白山市立小中学校の端末に関しては、6年を基本に更新しており、次回も6年後に更新をしたいと考えております。財源は、端末代金の3分の2について、石川県公立学校情報機器整備事業費補助金として入る予定となっております。この中に間接国庫補助が含まれます。

タブレット端末だけの金額で言いますと5億7000万あまりになり、その端末に関して3分の2である3億8000万あまりの補助が入るということです。

（尾張教育長職務代理者）

全部で約10億円、端末が5億7000万、それ以外の費用として5億円近くでソフトウェアの使用料金などがあるということですね。

このGIGAスクール構想について、端末やソフトウェア開発に関して、教育現場にビジネスが介入し、市場にされるべきではないという論評を読み、その通りだなと思いました。本当に子どもの健全な成長をねらったソフトウェア開発なら望ましいですが、よく売るための開発をされて、それに飛びついて、広く使うことについて、非常に疑問を感じます。

（宮岸学校教育課長）

ただいまのご意見に関して、基本は私もおっしゃる通りだと思います。

導入するソフトに関しましては、子どもの安全を考えまして、夜一定の時間以降は使えなくできるようなフィルタリングソフト、授業中にタブレットを大きなモニターに映すというような授業支援ソフト、家庭でもドリル学習ができるようなソフトなど、必要なソフトに限定して、導入しています。また、子どもが安心して持って帰って使えるような、保守料金もこの中に入っています。

必要最低限のものだけを入れるようにしておりますし、ドリルに関しては、学校の先生方との現状に関する情報交換もふまえ、家庭でソフトを利用した学

習ができるということが、入塾率による地域格差、経済格差の対策にも繋げることができるというところで、導入した経緯があります。
　そのような訳で、学校教育課としては、必要最低限のもので環境を整えているという認識で、逆にこの金額で済んでいるのではないかなというふうに考えているところもあります。

（尾張教育長職務代理者）
　個人的な意見としては、宿題の是非ということにも関わりますが、家に帰ったら地域や地域住民の中で、もっと幅広いいろいろな学びをすることが重要だと思っています。

（清水教育長）
　今、世の中ではデジタル化の行き過ぎ、弊害というところも言われています。私たちも十分留意して、学校と一緒に考えながらやっていかなければならないと思っております。